

平成三十一年学力検査

全日制課程 B

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号

第

番

国語

一次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(永田和宏『知の体力』による)

(注) ○□は段落符号である。

○ 必定||必ずそうなると決まっていること。

○ うさんくさい||どこことなく疑わしい。

○ 捨象||ここでは、可能性のあるさまざまな表現を切り捨てること。

○ 便宜的な||都合のよい。

○ 媒介||二つのもの間をとりもつこと。またそういうもの。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(一) ① 容易に相手に同意を得られそうな言葉をいつたんはのみ込んでみる

とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 相手とあらかじめ共有されている言葉では、互いが知っているという確認にはなっても新鮮な驚きや喜びを感じることは少ないから。

イ あらかじめ相手にも内容が想定される言葉では、言葉をただなぞるだけで相手を納得させることができる会話にはならないから。

ウ 近所の人に出來あいのフレーズを使った挨拶をすることで、相手に思考の枠組みを共有しているという安心感を与えられるから。

エ 言葉は素早く相手とつながることができる架け橋といえるもので、日常の会話でも相手に一回性の新しさを届けたいと考えているから。

(二) 「A」、 「B」にあてはまる最も適当なことを、次のアからカまでの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア たとえば イ なぜなら ウ それとも エ すると
オ すなわち カ いっぽう

(三) ② 言葉のデジタル性の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 言語を通して毎日受け取る情報は、数えきれないほど多く存在するため、その中には十分に検証されないまま言語化された情報が含まれている可能性が高いということ

イ 言葉で言い表すという行為は、対象に当てはまる言葉を選択すると同時に可能性のある別の表現を切り捨てているため、対象の全てを言い表せているわけではないということ

ウ 人が抱く思いや感情は、複雑なものやあいまいなものが多いため、他者と共有できるように完全に言い表すには詩歌や文学作品という形態が最も適しているということ

エ 日常的に用いられている言語は、対象それぞれに数えきれないほどの言い表し方が存在するため、何度も言い換えることで適切に表現できるということ

(四) 筆者は第七段落で、真のコミュニケーションに必要なことについて述べている。それを要約して、七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「辞書的な意味」、「言語化」という二つのことばを使って、「真のコミュニケーションが成立するには、……」という書き出しで書くこと。二つのことばはどのような順序で使ってもよい。

(五)

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

・次のページの枠を、下書きに使ってもよい。

この文章の論の進め方の特徴として適当なものを、次のアからカまでの中から二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 身近な経験の中から話題を設定し、その話題について掘り下げていくことにより、読者の共感が得られるように主張を述べている。

イ 主張を支える多くの事例を挙げ、事例ごとに主張が正しいかどうかを検証することにより、文章全体に説得力をもたせている。

ウ はじめに結論を述べ、根拠となる文献を引用して説明を加えることにより、自身の考えの妥当性を強調しようとしている。

エ 対照的な概念を提示し、それぞれの特徴や問題点を明らかにすることにより、読者に自らの見解をわかりやすく示している。

オ 話題を一般化して問題提起したあとに、具体例を示して説明を加えることにより、読者に身近な出来事として捉えさせている。

カ 経験や具体例をもとに仮説を立て、さらに別の視点を加えて検証することにより、その仮説が成り立つことを客観的に証明している。

※ 左の枠は、(四)の下書きに使ってもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。

						ン	真
						が	の
						成	コ
						立	ミ
						す	ユ
						る	ニ
						に	ケ
						は	ー
						,	シ
							ヨ

80 70

二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① スポーツを通じて留学生と親睦を深める。

② 光をアびて朝露が輝いている。

(二) 次の③の文中の傍線部と同じ漢字を用いるものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

③ 美しい山並みをハイケイに記念写真を撮った。

ア お手紙をハイケンしました。

イ 昨年の優勝校は決勝を前に惜しくもハイタイした。

ウ 海外のニュースが瞬時に日本にハイシンされる。

エ ハイスイの陣で試合に臨んだ結果、勝利を得た。

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

〔本文にいたるまでのあらすじ〕

明泉女子高校二年の御木元玲のクラスは、秋の合唱コンクールでさんさんなできに終わった歌を、再び卒業生を送る会で披露することになった。この歌は、冬に行われたマラソン大会で、最終走者の玲を励まそうとクラスメイトたちがゴール前で歌い出し、その場をいた人たちを心から感動させた歌である。

〔本文〕

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

著作権の関係上、文章を表示しておりません。

(宮下奈都)『よろこびの歌』(6)

(注) ○ [1] [6] は段落符号である。

- 萌芽^{ひげ} 〓 物事が起こる前ぶれ。
- ビジョン 〓 ここでは、目指す歌のイメージのこと。
- 錯綜^{さくそう}する 〓 複雑に入りまじる。 ○ 饒舌^{じょうぜつ} 〓 口数が多いこと。
- ひねる 〓 ここでは、あれこれ考えて素直でなくなる。
- ポーズ 〓 ソフトボール部の顧問の先生のあだ名。

(一) 第二段落における登場人物の思いを説明したものととして、最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア 練習後に声をかけてきた千夏に対し、玲は千夏も歌に足りない何かに気づいているのではないかと感じた。
 - イ 歌の仕上がり具合が気になって玲に問いかけた千夏だったが、玲からの専門的な説明に気後れしてしまった。
 - ウ 煮え切らない態度の玲にしびれを切らしたひかりは、玲の重い口を開かせようと続けざまに問いかけた。
 - エ 真剣な表情で玲に問いかけてきたひかりの姿を見て、玲はひかりの本心を聞き出すのは今だと思った。
- (二) 本文中の「1」から「3」のそれぞれにあてはまる最も適当な文を、次のアからウまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア 私たちはどんな歌を目指しているんだろう。
- イ あれ以上の歌を聴くことはもうないと本気で思った。
- ウ もっと歌えるはずだと思ってしまう。

(三) 指導者ではないような気がしていたとあるが、その理由を説明したものととして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア クラスメイトが自らの合唱のすばらしさに気づくためには、指揮者が指導してはならないと考えていたから。

イ 指揮者としてクラスメイトの歌をひとつに束ね、感動を生む合唱にまで指導していく自信がもてなかったから。

ウ 指揮者ははつきりとしたイメージをもってクラスメイトに指導するべきであるのに、それを明確にできなかったから。

エ クラスメイトの自発的な合唱が生み出す感動がすべてであり、指揮者は指導しすぎないのがよいと思っていたから。

(四) この文章の表現の特徴として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 比喩表現が多く使われており、主人公が中心となって歌のイメージをひとつにまとめ上げていく過程が丁寧に説明されている。

イ 主人公の内面の描写にクラスメイトとの会話が織り込まれ、交流を通して主人公の思いが深まっていく様子が描かれている。

ウ 専門用語が平易な言葉に言い換えられ、合唱曲を完成させるといふ音楽性の高いテーマがわかりやすく示されている。

エ クラスメイトそれぞれの視点から物語が語られ、読者も合唱に参加していると思わせるような臨場感が生み出されている。

(五) 次のアからエまでの会話は、この文章を読んだ生徒五人が、第五段落で描かれている早希の行動と心情について意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれていることに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア (Aさん)

以前は合唱の練習に参加することなく帰っていた早希に、合唱の練習後ソフトボール部の練習に向かうという変化が生まれています。選手を応援する立場でソフトボールに関わる自分を素直に受け入れ、生き生きと高校生活を送っている様子が伝わってきます。

イ (Bさん)

玲に向かつて「お疲れ」と笑いかける早希からは、玲を励まそうとする気持ちが伝わります。周囲を見下しながら高校生活を送っている玲の姿にかつての自分の姿を重ね、自分を変えてほしいという願いを込めて優しく玲を支えようとしていることがわかります。

ウ (Cさん)

「私からソフトを取つたらなんにも残らないからね」という早希の発言から、早希のソフトボールへの情熱を感じます。玲の発言に対するいらだちを上手に隠して笑顔で対応しているところに、高校生としての早希の成長を見ることができま

エ (Dさん)

いつになく饒舌な早希からは、中学まではエースで四番だった自分を誇りに思っていることが伝わります。今は正式な部員としてではなくソフトボール部に関わっているものの、これからはレギュラーをねらっているという早希の強い気持ちを感じます。

オ (Eさん)

「玲のおかげ」という発言から、早希が再びソフトボールに関わるきっかけが玲にあったことがわかります。玲と接するうちに早希は中学までの実績へのこだわりが解け、純粹にソフトボールが好きだという自分を取り戻したように思います。

(六)

次のアからカまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 玲は、クラスメイトの歌がある程度のレベルに達したと感じ、本番直前にこれ以上の歌を望んでクラスメイトに負担をかけるのはやめようと考え始めた。

イ 玲は、千夏からの鋭い指摘によって自分の合唱に対する考えの甘さに気づき、千夏の望む指揮者を目指すことで周囲の期待に応えたいと思っている。

ウ 玲は、ひかりの発言によって目指す歌のイメージを明確にするのは自分であると認識し、指揮者として何とかしなければならぬと思っている。

エ 玲は、部員でもないのにソフトボールの練習に熱心に参加する早希に嫉妬し、わざと素直でない態度をとることによって早希の関心を引こうと考え始めた。

オ 玲は、早希とのやりとりの中でこれまでの自分を反省し、技術的なレベルに対するこだわりを捨てて誰にでもわかる音楽を目指しているように思った。

カ 玲は、早希の言葉から不本意なまま高校生活を送っていた自分自身を見つめ直し、今を否定することなく前を向いて歩んでいこうと思

四 次の漢文(書き下し文)を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

陳太丘、友と期して行く。日中を期するに、中を過ぐるも至らず。太丘舎てて去る。去りて後乃ち至る。元方時に年七歳、門外に戯る。約束して出か 正午にと 遊んでい

客、元方に問ふ。「尊君在りや不や。」と。答へて曰はく、「君を待つこと久しきも、至らざれば已に去る。」と。友人便ち怒りて曰はく、

父君はおられるか あなたを長

「人に非ざるかな。人と期して行くに相委てて去る。」と。元方曰はく、「君、家君と日中を期す。日中すれども至らざるは、則ち是れ信無

し。子に対して父を罵るは、則ち是れ礼無し。」と。友人慙ぢて、車を下りて之を引く。元方門に入りて顧みず。

引き止め ようとした

(注) ○ 陳太丘 後漢代の人物。太丘は官名。
○ 元方 陳太丘の子。

(『世説新語』による)

(一) 波線部アからカまでの中から、主語が「至る」の主語と異なるものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

(二) 怒りて とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 待ち合わせの時間に間に合わなかったから。

イ 一緒に出かける約束を守らず先に行ってしまったから。

ウ 父親と会う約束をしていたのに子どもが出迎えたから。

エ 一人だけ置き去りにされて恥をかいたから。

(三) 友人慙ぢて とあるが、友人は何を恥ずかしく思ったのか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 非があるのは自分の方であるのに親子から謝罪されてしまったこと

イ 友情について率直な意見を述べた子どもに反論できなかったこと

ウ 子どものわかりやすい説明で初めて友人の思いを理解できたこと

エ 親子に対する自分の言動が不誠実かつ非礼なものであったこと

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 陳太丘は、あえて自ら先に出発することによって、約束を破った友人に反省させようと考えた。

イ 陳太丘は、友情よりも約束を優先して時間どおりに出発したが、友人は友情を優先すべきだと考えていた。

ウ 幼い元方は、不作法な態度をとったのが父の友人であっても、少しも遠慮せずに堂々と正しいことを述べた。

エ 幼い元方は、父が非難され始めたため、機転をきかせて話題を変えて父に責任が及ばないようにした。

(問題はこれで終わりです。)